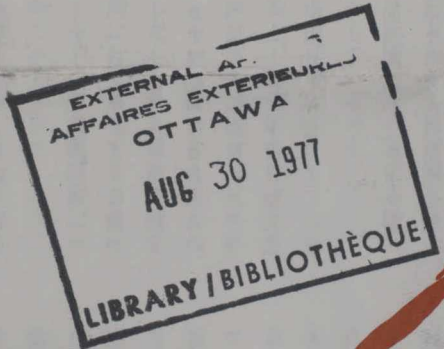


CA1
EA947
B71
#12 May 1977
DOCS



日系カナダ人特集

1977年5月
No.12



トピックス——2

日系カナダ人百年祭の意義——メル・ツジ——3

先駆者・永野萬蔵——4

日系カナダ人の歩み——トヨ・タカタ——5

ウィスリー・堀君のこと——野中憲——8

カナダと新渡戸稲造——猿谷要——9

ケベック州で新言語法案——10

インフレ抑制を目指す新連邦予算案——10

「ハーバート・ノーマン全集」と「カナダ経済入門」——11

トピックス——12

カナダにおける日系百年の歴史 百年祭委員会の記録から

カナダ日系移民百年祭委員会は、今年一月、日系人史における過去百年の主なできごとを次のようにまとめた。

△一八七七年 永野萬蔵が日本人として初めてカナダに移住した。
△一八八五年 日本移民がはじまり、鉱業、漁業、鉄道敷設、伐木及び農業に従事。
△一八八七年 最初に日本婦人が移住、家庭生活がはじまった。
△一九〇一年 日本人の数がはじめて人口調査表にのせられた。日系人口は四、七二八人でその九七％がブリティッシュコロンビア州に居住。その他はユーコンに八四人、平原州、オンタリオ、ケベック、ノバ・スコシア各州に住んでいた。

△一九〇二年 本間留吉(帰化人)が参政権問題で敗訴。
△一九〇七年 日本移民が急増し、バンクーバー市で東洋人排斥暴動がおきた。
△一九一七年 約二百名の日本人義勇兵が欧州戦場に出征し、五十四人が戦死。
△一九三一年 日系古兵たちに参政権が付与された。

△一九三六年 日系市民協会が誕生し、日系代表団がオタワに向いて参政権を要請したが失敗に終わった。
△一九四一年 真珠湾攻撃。日系人にとって暗黒時代であった。
△一九四二年 二万二千人の日系人は西部沿岸から総立退きをうけた。
△一九四五年 英本国の要請で、カナダ政府は約百五十名の日系人を軍人として採用した。

表紙の写真 今年、記録の上で日本人が初めてカナダに渡航してから百年目にあたる。一世たちの苦難、一九三〇年代から戦争にかけての屈辱、そして戦後における発展と新たな悩み。第二世紀はどういう時代になるだろうか。今号の写真は、一部を除いて、「日系カナダ人移民百年祭記念写真展実行委員会」のご好意で貸していただいた。

△一九四九年 日系人にとって平常化となり、すべての規制は解除され、ブリティッシュ・コロンビア州で参政権も付与された。大部分の日系人はそれぞれ再定住したところに落ちついた。
△一九七七年 日系人口は合計約四万人。カナダ全体に散在しているが、特にトロント・ハミルトン地域には約一萬五千人が集結しており、バンクーバー付近には約一万人、南アルバータ州には約二千五百人が住んでいる。三世の約九〇％は非日系人と結婚する傾向がつづいている。

日系人移住百年祭の主な行事

●踊り大会 各地域でお祭りや踊りコンサートが開かれるほか、日系カナダ人のグループがトロントやオタワ、バンクーバーなどで公演する。
●敬老会 戦前カナダに移住した一世および一九一一年以前に生れた二世日系人すべてに、百年祭のマークと詩を刻んだ湯のみとメダルを贈呈し、日系パイオニアの労をねぎらう。

●図書館展示計画 全国各地の図書館で日系カナダ人の歴史を紹介する展示会を開く。
●日本映画祭 小津、溝口、小林、黒沢らの作品十六点を、モントルオール、オタワ、トロント、バンクーバーなどで放映する。

●写真展 五月十六日にオタワで幕開けした写真展「日系カナダ人 一八七七年—一九七七年」を、全国各地で巡回展示する。日本では、読売新聞社が五月十九日から二週間、大阪・梅田の阪神百貨店で展示したあと、長崎県などで展示する計画を進めている。

また、日系人史百年を記録した記念アルバムも発行される。そのほか、刀剣展や日本の伝統芸能などの紹介、柔剣道大会なども各地で予定されている。

●詩集 日系カナダ人による詩を収集編纂する。

●講演会・セミナー「戦時措置法」(マクマスター大学)、「日系カナダとは何か—三世セミナー」(ハミルトン市多文化センター)、「カナダにおける日系人の経験」(ウイニペグ)、「われわれの今後・青少年大会」(トロント市日加文化センター)などが四月から七月までに予定されている。

●その他 日加週間(ハミルトン市。日本人および日系カナダ人の生活全般を紹介する)、ヘリテージ・デイ(トロント。日系人をはじめ、カナダ在住の諸民族の文化を紹介する)、フォーク・アート展(セント・キャサリンズ。日本の民芸品、武道、盆栽などを紹介する)、パウエル街祭り(バンクーバー。日本の民芸品、踊り、武道など)、ヘリテージ・デイ(レスブリッジおよびエドモントン)。

カナダ日系人史が新たに二冊

日系カナダ人については、戦前「加奈陀同胞発展史」(大陸日報社、一九〇九年)、中山四郎著「加奈陀同胞発展大鑑」(一九二一年)、戦後は佐藤伝、英子共著「子どもと共に五十年—カナダ日系教育私記」、鶴見和子著「ステアストーン物語—世界の日本人」、蒲生正男編「海を渡った日本の村」などが出版されているが、このほど新たに二冊が刊行された。一冊はケン・アダチ著「ザ・エネミー・

ザット・ネバー・ワズ」(仮想敵国人)。全加日系カナダ人市民協会が十数年前に日系カナダ人正史を企画し、トロント大学やマリーランド大学で英語を教え、日系紙「ニュー・カナディアン」の編集長をへて現在「トロント・スター」紙で評論活動をしているケン・アダチ氏に執筆を依頼して、昨年同協会から発行された。英文四五六ページで、一般寄付金とカナダ政府の援助資金で完成された。日本人によるカナダとの最初の接触から現在まで多くの資料を使って詳細に記録・描写している。もう一冊は、新保満著「石をもて追われるごとく—日系カナダ人社会史」(大陸時報社、一九七五年)。トロント・ウォータールー大学の新保満教授(社会学)が「日系一世に焦点をすえて」(序章)、初期の移住者の生活、初期の女性移民の生懸、日系人に対する排斥の第二次大戦中の総移動などを社会的な分析を加えながら描いている。著者はこの本を「いわゆる日系人正史」ではなく、「社会史の試み」と称している。三二七ページ。

スズキ、宮崎氏にカナダ勲章 日系人二人の受賞は初めて

カナダ政府は、このほどブリティッシュ・コロンビア大学の動物学教授で遺伝学の権威デビッド・スズキ博士(三世)にカナダ勲章「オフィサー位」を、またブリティッシュ・コロンビア州リルエットで医師として永年貢献した宮崎政治郎氏(滋賀県彦根市開出今町出身、七十七才)に同「メンバー位」を授与した。日系カナダ人が同時に二人もカナダ勲章を受けるのは前例がない。

日系カナダ人百年祭の意義

三、四世に歴史的展望を



メル・ツジ

永野萬蔵がカナダに歴史的的第一步を記して以来、カナダの日本人達は、偏見と人種差別の荒波を乗り越え、尊敬と正しい評価と立派な業績を得るにいたった。萬蔵が船大工として慎ましいスタートを切った時から日系カナダ人は懸命に働き続け、少数民族としては、カナダの中でも尊重される存在にまでなった。

今日、日系カナダ人は、政治家、外交官、弁護士、教師、ジャーナリストなどから、配管工、守衛、労働者まで、あらゆる階層に及んでおり、世界各国に移住している二百万人近くの日本人中、最高の成功を収めている。

しかし、日本でもほとんど知られていないのと同様に、このことを知っているカナダ人はほんのわずかである。日系カナダ人の秘書は、カナダ中で最も優秀な部類に属するということ、日系人は学校

の成績が非常に優秀であるということ、犯罪記録の中には実質上全く登場しないということ等は知っていても、全体像としてはほとんど知らないも同然である。

多くの日系カナダ人、特に三世や四世の人々は、祖先を同じくする本国の日本人と共通するものをほとんど持つていないにもかかわらず、白人系カナダ人は、意識的でないにしろ、日系カナダ人を「日本人」と誤称している。

移住百年祭の目的の一部は、このような誤った考え方を正しつつ、一九四二年の日系人強制移住によって強いショックを受けて以来、日本的なものとのつながりをほとんど失ってしまっていた日系カナダ人社会を組織化し、まとめることにある。

ほとんどの行事は、比較的最近移住してきた約五千人を含む、約二万人の日系カナダ人が、いまや故郷と呼んでいるトロント周辺で行われる。しかし、日系人が住むその他の都市および州、バンクーバー、グリーンウッド、ケローナ、カムループス、カルガリー、エドモントン、ミルク・リバー、ウイニペグ、ハミルトン、チャタム、モンリオールでも、展示会、ショー、会議、ピクニック、スポーツ大会、そしてもちろん盆踊り等が開催されている。

百年祭は、特に、萬蔵の移住以来、数知れない辛苦に耐えてきた両親や祖父母達の文化的背景をほとんど知らない、三世や四世にとって、重要な行事となる。ここ五年来、三世、四世の活動家達は、日本人であるのか、カナダ人であるのかという重大な問題と懸命に取り組んできた。なぜならば、三世、四世は、自分たちが

経験した試練と苦難を決して忘れない両親たちによって、成功の恩恵と良い境遇を与えられ、その間に、白人中産階級化という自己矛盾の状態に陥ってしまったからである。

若者達が使っている隠語を借りれば、二世の人々は、自らと子供達を「バナナ」にしてしまったのである。すなわち、外側は黄色く、中味は白ということである。この点について、「バナナ」になっってしまった人々自身の間から疑問がわき上り、高まりつつある。

こうした中で、トロントで発行されている日系人向け隔週刊誌「ニュー・カナディアン」(日英両語)の元英文編集長で、現在は全加日系カナダ市民協会百年祭委員会の執行委員長を務めているトヨ・カタ氏は、今こそ、日系カナダ人に歴史的展望を与える時だと感じた。百年祭のアイデアを考え出したのも、萬蔵を歴史のなかから引き出して再認識し、今年五月十四日、カナダ史上の重要人物として評価しようとしているのも、このトヨ・カタ氏である。

タカタ氏によると、学問的には、一八三三年に何人かの日本人漁民が、ブリテイツ・コロンビア州クイーン・シャーロット島に漂着したらしいと推定されているが、実質的には、萬蔵こそ日本からカナダに移住した多くの漁民、農民の先頭を切った人物であると言う。萬蔵は、一八五三年、長崎に生まれ、カナダから再びそこにもどった後、一九二四年、肺病併発症で死亡した。

また日系一世の歴史家、中山訊四郎氏によると、萬蔵はカナダ在住中、今日でも日系カナダ人の特徴とされている勤勉

さを発揮し、二軒のみやげ物店を営んだり、在加邦人相手の食品販売業を営んだり、後には、クロナイクのゴールド・ラッシュと大陸横断鉄道施設工事に乗り、両事業に機材を売り込んだりしたとこのことである。

タカタ氏は「萬蔵は、当然受けるべき評価を受けてこなかった。しかし、萬蔵は、日本人開拓者の草わけてであり、この人物に栄光を与えることにより、カナダへの移民を選んだすべての一世開拓者に栄光を与えることができる。萬蔵の名は、カナダ西部の開拓史にしっかりと刻まれるべきである」との考えをもっている。

永野萬蔵の開拓物語は、百年祭のほんの一部にすぎない。なぜならば、この企画全体そのものが、カナダおよび日系カナダ人の歴史における最も重要な出来事のひとつだからである。

日系カナダ人の文化的運動は、今度の百年祭などをきっかけとして、高まりを見せようとしている。この場合、戦術上重要なことは、三世、四世の大部分に欠けている歴史的展望を強固なものにすることである。トロントの作家、ロン・ポールの言葉を借りれば、「一九四一年、マッケンジー・キング首相が戦時特別措置法を発動し、一九四二年二月二十六日、ブリテイツ・コロンビア州の沿岸地域から、日系カナダ人を完全に疎開させることを命じた後に日系人に加えられた、剥奪、格下げ、泥棒行為を、世代全体が忘失している」からである。

一九七〇年、同じ法令がケベック分離独立運動に適用された時、日系カナダ人は強い衝撃を受け、一九四二年における法令適用は例外でもこじつけでもなく、

今日のような自由な雰囲気の中でさえも起り得ることなのだ悟った。遺伝学者として、また活動家として国際的に有名なデビッド・スズキ氏に「日系カナダ人の義務は、犯罪事実を洗い出したり互いに非難しあつたりすることではなく、我々の社会が、理想に向つて確実に進んで行くよう力を貸すことである。理想という言葉は、あまりにも安易に唱えられすぎてゐる」と書かせたものは、ケベック問題であり、一九四二年の強制移住であり、そして、日系カナダ人のような東洋人にならざるを得ない可能性がある、カナダにおけるインド人、パキスタン人への人種的偏見である。

強制移住によつて失われた貯金や家、またそれによつて生じた社会的、心理的断層に対する補償は、日系カナダ人が取組んで行こうとしている問題の一つである。日系アメリカ人は、最近の全国大会において、一人当たり五千ドルと強制移住期間一日当たり十ドルを各人に配分するものとして、総計二十億ドルの補償を求めたことを決定した。

現在までに、日系アメリカ人は、約五千万ドルの獲得に成功している。これは日系アメリカ人が蒙つた損失として、ある政府機関が算出した五億ドルのほんの一部である。日系カナダ人に関しては、それに匹敵する額が歴史の中に埋もれている。ニューズ・キャスター、ピエール・バートン氏のスタッフが調査したところによると、損失を蒙つた日系カナダ人の四人中一人は、日本人財産損失補償要求委員会に訴えることもできない状態にあるとあることである。

しかし、いくつかの事実が明らかにさ

れている。例えば、日系カナダ人の家族が所有していた、フレイザー峡谷の牧場七ヶ所、総面積にして一万三千エーカーを、復員軍人対策評議会が八十三万六千二百五十六ドルで買取り、戦後、復員してきた退役軍人にそれを分配した、というふうなこと。「この価格は、公正と言うにはほど遠い。その証拠をあげることのできる」とバートン氏は言っている。

このような例は、いくらでもある。しかし、多くの、いや、おそらくはほとんどの人々が、できれば強制移住のことを忘れたかと思つており、一世、二世に特有の「しかたがない」との態度をとつている。これが日系カナダ人にとつて、ジレンマとなつてゐるのである。

成功が大きな抑制力となつてゐるとも言える。トミー・シヨヤマ氏は大蔵次官として、オタワにおける最も有力な文官の一人である。フランク・モリツグ氏は新聞の編集者を務めた後、現在、オンタリオ州の高級官僚となつてゐる。レイモンド・モリヤマ氏は、カナダにおけるトップ・クラスの建築家、そしてシズエ・タカシマ氏は作家として、美術家として名を成してゐる。その他、政府機関でも、教師、歯医者、弁護士、エンジニア等の職業でも、また、今日ではマスコミ界でも、活躍が目立っている。

しかし、多くの若者にとつて、成功も真実を見誤らせるものであつた。カナダにおける人種間関係は、世界で最も良好なもの部類に属するとは認めながらも、若い日系カナダ人は、カナダは多くの人が主張するようなユートピアの人種融合国家ではないと考へてゐる。

(バンクーバー・サン前東京特派員)

永野萬蔵は、一八五三年、長崎県口津大泊で網元の息子、六人兄弟の四男として生まれた。父親は喜平といつた。故郷で大工見習をしてゐたが、船の修理を手伝つてゐるうちに密航を決心したといわれる。一八七七年三月、萬蔵は英国船に乗り込んで横浜を出発、五月にカナダの太平洋沿岸に達した。二十四才のときである。

萬蔵は冒険心に富んでいただけでなく、商才もあつたとみえて、上陸後、ニュー・ウエストミンスターでイタリヤ人漁夫と手を組んで鮭漁に従事し、その後バンクーバー一帯の日系製材工の親方となつたり、ゴールド・ラッシュで湧くクロンダイクへ向う人たちに食料・雑貨を売つたり、ホテルを営んだり、みやげ品店を開いたりしてゐる。海外では初めての銭湯も経営した。一時日本へ帰つて、横浜で洋風レストランの経営に携つたこともある。鉄道建設に働く中国人労働者を呼ぶ仕事もした。一九〇九年のピクトリア市住居録には、ジャック・ナガノの住所として三つも載つてゐる。

当時、彼は二つのみやげ品店、食料品店一軒、下宿一軒を営んでゐた。

萬蔵は正式な教育こそ受けていなかったものの、いろいろな事業に成功し、ピクトリアの日系人社会では指導的人

先駆者・永野萬蔵



◀永野萬蔵(中央)と家族。萬蔵を囲んで、左から長男辰雄の妻、辰雄、次男照磨、多誉夫人。1910年、シヤトル。

物となつた。

第一次世界大戦中、日本の戦艦がピクトリアを基地に北米太平洋沿岸を巡航した。萬蔵はこれにも重要な役割を果たして、表彰されている。

しかし戦後、事業は衰退に向かい、健康もおとろえてきたので、一九二二年、故郷の口津に帰つた。そして帰国して二年後の一九二四(大正十三)年五月二十一日、萬蔵はついに他界した。七〇才であつた。口津の玉峰寺には、「永野萬蔵の墓。多誉之を建立」と刻まれた墓石が、多誉夫人の手によつて建てられている。

萬蔵には二人の息子があつた。ピクトリアで生まれた長男ジョージ(辰雄)は一九一五年頃米国に移住、現在ロサンゼルスで健在である。八十六才。次男のフランク(照磨)は辰雄の腹違いの弟で、オーシャン・フォールズ、ニュー・デンバーなどに住んだあと、一九六七年、ケベック州ファーンハムで亡くなった。照磨には五人の娘があつて、すべて白人と結婚した。辰雄には息子が三人、娘が一人いた。

しかし辰雄は弟家族について会つたことがなく、また家族同士もこれまでになつた一回、しかも短期間だけ会つたきりだといふ。百年祭を記念して、家族同士の再会が計画されている。

日系カナダ人の歩み

トヨ・タカタ



一八三三年、カナダ太平洋岸のクイー
ン・シャーロット島の浜辺に、一隻の難
波船が漂流してきた。乗っていた尾張(名
古屋)出身の漁夫三人は、無事救出され、
その後日本へ帰っていった……。

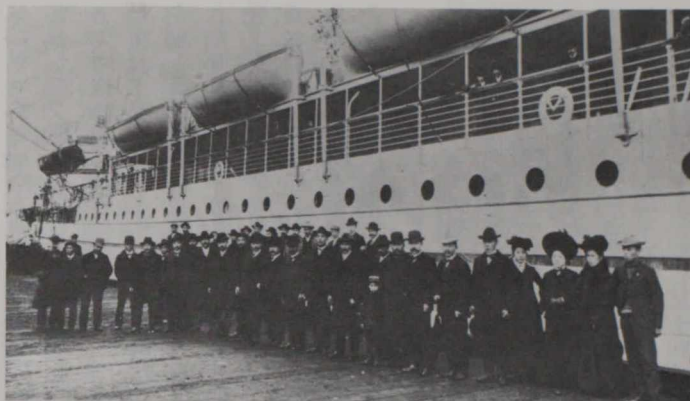
記録の上では、この三人が当時、ニュ
ー・カレドニアと称されていた処女地、
カナダ太平洋沿岸へ達した最初の日本人
とされている。もちろん、それ以前にも
同じように嵐に出会い、黒潮に乗ってカ
ナダ沿岸にたどりついた日本人漂流者が
あったことは想像に難くない。

しかし、カナダにおける日系人の物語
がはじまるのは、今からちょうど百年前
の一八七七年、すなわち、日本人が外国
人と接触することを禁じた徳川三百年の
鎖国が撤廃されてから九年目のことであ
る。当時の日本は大飛躍のときであり、

社会的、教育的、政治的、経済的諸制度
が大きく変革されている最中であつた。
有能な若者は海外へ雄飛して、欧米から
いろいろなことを学んでくるよう奨励さ
れた。日本は、一夜にして、封建社会か
ら近代国家へと大急ぎで脱皮を図っていた。

こうした激動的な日本の開明期にあつ
て、一人の冒険的な男がいた。永野萬藏
である。ペリーが徳川幕府に開国を迫つ
た一八五三年に長崎で生まれた萬藏は、
この動乱期にあつて、大工をやめ、英国
船にもぐり込んで、あてのない旅にでた。

萬藏がたまたま下船したのが、現在の
ブリティッシュ・コロンビア州ニュー・
ウエストミンスター。一八七七年五月で
あつたといわれている。萬藏自身には、
そこがどこであるのか分らなかったが、
とにかく確認されている中では、カナダ
に上陸して定着した最初の日本人となつ



▲初期の日本人移民(1910年)。

たわけである。(萬藏には息子が二人あ
つた。一人(ジョージ)は現在八十六才
で、ロサンゼルスに住んでいる。他の一
人は、ケベック州フアンファムで妻と
息子一人、娘五人を残して亡くなってい
る。)

萬藏がその後のカナダ日系移民の先覚
者となつたのは、このように偶然のいた
ずらによるものであるが、彼のたくまし
く、強固な精神は、初期の西部カナダ開
拓に大きく貢献した日系一世たちの、辛
棒強さ、頑固さ、勤勉さの象徴となつた。

一八八七年には、和歌山県三尾村出身
の工野儀兵衛がやってきた。工野はフレ
ーザー川を上る蛙の大群をみて、故郷に
通報、村の人たちに来加を進めた。その
結果、同郷の人たちが大勢押しよせ、ス
ティーブストン(現在のブリティッシュ
・コロンビア州リッチモンドの一部)の

中核となつた。(リッチモンドと和歌山市
は姉妹都市になっている)彼らの子孫は、
今でも、日系カナダ人漁夫の大きな部分
を占めている。カナダにおける漁業の技
術や道具も、大半はこれら初期の日本人
漁夫が持ち込み、あるいは発展させたも
のだ。

またその頃、吉沢保吉は三人の仲間と
共に、バンクーバーから未知の太平洋岸を
小舟をこいで北上、豊富な漁場をみつけた。
一世の中でも、おそらく最も大胆なのは
宮城県登米郡米川村出身の及川甚三郎
であつた。及川は、一九〇六年、少なく
とも女性二人を含む八〇人ほどの村人た
ちと共に、廃船を買ってカナダへ密航し
た。もちろんこれは不法行為であつたが、
彼らの勇氣に感嘆した当局は、日本領事
館と交渉して彼らに滞在を許可した。

一八八九年、バンクーバーに日本領事
館が創設された。その頃になると、バン
クーバーやビクトリアでは日系人の数も
大きく増え、商業を営む者もかなりで
てきた。そのうち最大の成功者は田村新吉
で、数多くの事業に参画し、彼の名前を
冠した信託会社もある。田村はのちにな
って日本へ帰り、貴族院議員に推挙され
ている。



また、庭師
の岸田伊三郎
は、一九〇六
年、ビクトリ
アに茶店のあ
る日本式庭園

を作つたが、これが評判を呼び、現在で
もビクトリア観光の目玉となっている。
世界的に有名なアッチャート・ガーデン
の日本庭園も造園することになった。

太平洋沿岸の温暖な気候における造園法
に残した彼の足跡は大きい。

そのほか、大規模な銅山の発見者で、
池田金山で知られ、またクイーン・シャ
ーロット島イケダ湾の名前の由来となつ
た池田有親(新潟県出身)、若くしてヨー
ロッパへ渡り、クロンダイク(一八九〇
年代に大ゴールド・ラッシュが起きた)
で富を求め、その後カルガリーでレスト
ランを経営し、そしてサラブレッドの飼
い主となつた稲益熊太郎(福岡県出身)



◀日系人の登録風景(1942年)。

などがあつた。

初期の移住者は、大半が農村出身で、
彼らは鉱山や鉄道、あるいは木材切出し
場や製材所で働いた。そしてその多くは、
稼いだ金で肥沃なフレザー川谷やオカナ
ガン谷の未開地を買った。こうした動
きの草分け的存在は井上次郎(佐賀鍋島
藩士の長男)や山家安太郎(広島県豊田
郡豊浜村出身)らで、二人は他の日系人
農家を指導してフレザー川下流で日系
人農家を結成した。これらの農家はきわ
めて生産性が高く、他の人たちの羨望の
的となつた。そして反感も買った。山家

は一九五八年、私財をなげうって「ニッポニア・ホーム」というカナダ唯一の日系養老院をオンタリオ州南部のヒームズ



▼本間留吉
◀収容所への「移動」を待つ人々たち。

ビルに創設している。フレージャー川で鮭漁に従事していた本間留吉（千葉

出身。フレージャー河漁者団体団長）は、元は武家の出ということもあつて、一八九五年に定められた日系カナダ人に投票権を与えないというアライテッシュ・コロンビア州政府の選挙法に対して、ほとんど単独で抵抗した。この権利の侵害は一九四九年まで撤回されなかった。しかし、リッチモンドには、彼の努力を讃え

て、ある学校に本間の名前が冠されている。

これらの——いや、すべての——一世先駆者たちがカナダ西部の発展に寄与した功績は計りしれないものがある。バンクーバー島カンベラードにある墓地には、炭坑爆発や山の事故による被害者が数多く埋葬されている。一九〇四年にニュー・ウエストミンスターで起きた鉄道事故では二十二人の若い一世が、そして一九一〇年、カナダ太平洋鉄道の本線を襲つ

た雪崩事故ではさらに三十人が命を落している。

ヨーロッパで世界第一次大戦が勃発すると、多くの一世が志願した。そのうちおよそ二百人が海外に出征し、殊勲をたてた。四十四人は永久に帰らぬ人となった。

一世の女性で、男性のような華々しい成果をあげた人はいない。しかし、夫とこの若い国に根をはやすための苦難と犠牲を共にしたという意味では、男性に劣らぬパイオニアといえよう。

最初の日本女性がバンクーバーにやってきたのは一八八七年であるが、永住を希望する男たちが妻を求め始めたのは一九〇五年頃になってからである。こうして若い花嫁たちが、「写真結婚」などを通じて、この見知らぬ土地へ、そしてまだ見ぬ夫のところへ、不安な胸をおさえながらやってきたのである。彼女たちは、妻として、母親として、そしてときには日本の文化的伝統の伝達者として、家庭に指針と安らぎを、そして日系人社会に安定と調和をもたらした。カナダで生まれた日系の息子や娘たち——すなわち二世——を、誇りある有能なカナダ人に育てたのは、まさにこれらの母親たちであった。一世日系人女性の最大の貢献は、そこにある。

日本人の移民は一九〇八年、アライテッシュ・コロンビア州の州民や政治家たちの圧力によつて制限されたが、妻として入国する女性はこれから除外された。

一九二八年にはこうした女性に対する制限も強化され、入国者は激減した。しかし、一九〇五年から一九二五年までにかかりの女性が入国したため、一九一〇年

頃から二世の誕生が増え、三〇年初期にピークに達した。

二世が成年期を迎えた一九三〇年の頃は、世界的な恐慌の最中であつた。おまけに、アライテッシュ・コロンビア州では、政府や民間事業家がアジア人に対する差別的雇用政策をとつたため、仕事の口も制限された。日系漁者に対する許可証（ライセンス）も削減されたため、



▼戦時中のタシメ収容所（アライテッシュ・コロンビア州）。

生活の基盤を失つたものも多い。

日本の満州および中国侵略は、日系人のこうした苦境に油をそそぐことになった。日和見的な政治家や偏見をもつた煽

動者たちは、アジア情勢をなてに、日系カナダ人のカナダに対する忠誠心を問い、根拠のない非難をあげて彼らをいじめた。

成長期に達した二世にとつて、基本的な問題は帰化、カナダ生まれを問わず、すべてのアジア系住民の選挙権が否定されたことである。一九二六年、これらの二世は「日系カナダ市民連盟」を組織した。彼らがまずやつたのは、オタワに代表団を派遣して、選挙権の回復を計ることであつた。しかし、これは不首尾に終つた。そのときに団長をつとめたのが、昨年、米国で上院議員に選出されて話題になつたサミエル・I・ハヤカワ氏（言語学者。元サンフランシスコ州立大学学長）である。

一九三九年にカナダがドイツに対して宣戦を布告すると、日系カナダ人は行動と言葉で忠誠の態度を示した。これで彼らに対する圧力もいくらか緩和した。

しかし、日本はやがて枢軸国同盟に加わる。…そして一九四一年十二月七日の真珠湾攻撃。日系人を隔離あるいは追放せよ、という声は高まつた。そしてカナダ政府は、米国政府同様、すべての日系人に太平洋沿岸一帯から移動するよう命令した。カナダ全体における日系人二万三千人のうち、二万二千人がその影響を受けた。しかも、その大半はカナダ生まれか、カナダに帰化した、れっきとしたカナダ人だつた。

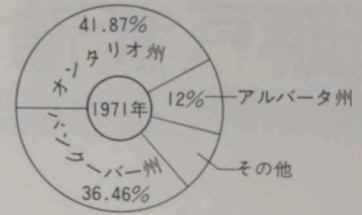
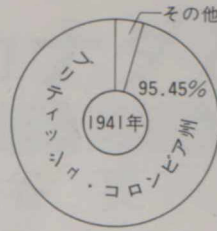
住みなれたところから追い立てられるのは、つらくて、悲しいことだつた。家族は引きさかれ、男は労働キャンプに送られた。農夫は土地を手離し、商店主は安値で店を処分した。日系人だけがカナダにおいて「敵性」民族とされたことは、このきわめて不当な仕打ちを一層不当なものとした。

この総移動により、日系カナダ人の環境は劇的に変わった。例えば、日系人の地理的分布では、一九四一年には日系人の九八パーセントがアライテッシュ・コロンビア州に居住していたのに、移動・再定住以後はオンタリオ州を先頭に、アルバータ、マニトバ、ケベックなどの各州に数多く住むようになった。

永野萬蔵のような一世たちはカナダに根をはやそうと苦勞した。彼らの子孫たちは、その根を保持しようと戦つた。彼らは不屈な精神と静かな勇気をもつて、この難事に耐え、それを乗り切つた。日系カナダ人は自分たちの価値を証明した。

日系人の州別分布

	1901	1921	1941	1951	1971
ブリティッシュ・コロンビア州	4,597	15,006	22,096	7,169	13,585
アルバータ州	13	473	578	3,336	4,460
サスカチュワン州	1	109	105	225	315
マニトバ州	4	53	42	1,161	1,335
オンタリオ州	29	161	234	8,581	15,600
ケベック州	9	32	48	1,137	1,745
大西洋諸州	1	6	5	19	160
ユークンダ及び北西準州	84	28	41	45	55
全カナダ	4,738	15,868	23,149	21,663	37,260



▲木材伐採キャンプで働く初期の日系人。

カナダ全体の人口に占める割合こそ低いものの、今やその文化的多様性の完全な一部となった。

一九四九年に、日系人に対する最後の制限はとかれ、選挙権も回復した。日系人はカナダ社会に受け入れられ、彼らの社会的、経済的環境も著るしく好転した。成年期に達した日系三世の間では、日系人以外の婚姻率が八〇パーセントにもなるほどになったのは、驚くべき変わりようだといえよう。

二世が特に充足感を覚えるのは、以前と違って、人種的理由で雇用や昇進が差別されないことである。これらの勝利は、何といても彼らの努力のたまものである。再定住した二世は、ありつける仕事は何でもやり、勤勉と正直によって賞讃

を勝ちとった。昇進の道が開かれ、訓練や才能、あるいは資質によっていかなる分野にでも入っていきけるようになった。こうして今や、日系カナダ人はほとんどあらゆる分野で活躍している。

医師や弁護士、建築家、エンジニアといった専門職に二世は多いし、教師としてもあらゆるレベル、あらゆる領域で名をなしている。官界においては責任ある地位を確保し、製造業、商業、コンサルタント業、サービス業などで自営し、成功を収めている。

▼ショーヤマ次官



一九三八年に発行された最初で唯一の日系英字紙「ニュー・カナディアン」の共同創立者でもある。州公務員としては、日本全域の二倍半の大きさのオンタリオ州で、天然資源省の魚・野生生物担当者、

を勝ちとった。昇進の道が開かれ、訓練や才能、あるいは資質によっていかなる分野にでも入っていきけるようになった。こうして今や、日系カナダ人はほとんどあらゆる分野で活躍している。

医師や弁護士、建築家、エンジニアといった専門職に二世は多いし、教師としてもあらゆるレベル、あらゆる領域で名をなしている。官界においては責任ある地位を確保し、製造業、商業、コンサルタント業、サービス業などで自営し、成功を収めている。

これについて、トルドー首相は、昨年十月に訪日した際、次のように述べている——「カナダに対する彼ら（日系カナダ人）の貢献は、その数の少なさと釣り合わないほど大きく、われわれは彼らのもっている数々のすぐれた素質に感謝している」「実業界や学界、官界の最上層部に、日本名をもった人々が見つけられる。その多くは国民的名士といつてよいほど有名である」

こうした日系人の中でも最も有名なのは、遺伝学の権威で、ラジオとテレビで科学番組を担当しているデビッド・スズキ博士（三世）であろう。二世として最も責任ある地位を占めているのはトーマス・スクニト・ショーヤマ大蔵省次官で、

カズオ・イリザワを上げることができる。心臓移植やガンの研究に参加するなど二世の医学に対する貢献も大きい。二世の女性として初めて博士号（動物学）を得たイレエヌ・アヤコ・ウチダ博士は、人間の染色体の研究で知られる。現在、マクマスター大学（ハミルトン市）の小児科教授をしている。



建築家として名をなした二世も少なくない。その中でも、特にトロントにあるオンタリオ科学センターやスカパーロー・タウン・センターを設計したレイモンド・モリヤマは最も有名。昨年設計したトロント市の地方美術センターは今年中

に完成する見込みである。

造形美術の分野では、カズオ・ナカムラ（トロント）、タカオ・タナベ（ウィニペグ）、ロイ・キヨオカ（バンクーバー）が画家として高い評価を得ている。ナカムラの作品はカナダの大手美術館でもどこでも見られる。また、建築を専攻したノブオ・クボタは彫刻家としても知られている。芸術家でもあり作家でもある高島静枝は、収容所での経験をもとに、自筆の挿絵を入れた「抑留キャンプの子供」という本を書いた。この本は日本語に翻訳されている（前川純子訳、強制収容所の少女）。カナダの文化的モザイクに対して日系人が日本的なものを持ち込んだとすれば、

それは柔道や空手などの武術であろう。柔道は初期の移民が紹介したが、日系人以外の人たちにも柔道の指導がなされたのは一九三五年、騎馬警官の課目に加えられるからである。

日系、非日系にかかわらず、いけば、盆栽、墨絵などに対する関心も高まっている。日系人の家庭では和食が喜ばれ、また仏教会では伝統的な儀式や祭がいまでも行われている。

一方、わずかに四万の日系人が日本の二十七倍もあるカナダに分散し、しかも他民族との婚姻もふえているとあって、移民二百周年を迎える前に一族グループとしての日系人は消えてしまうのではなか、という懸念もある。百年祭を計画したのも、そういう点を考えてのことであらう。

（日系カナダ市民協会百年祭委員会執行委員長）

それは柔道や空手などの武術であろう。柔道は初期の移民が紹介したが、日系人以外の人たちにも柔道の指導がなされたのは一九三五年、騎馬警官の課目に加えられるからである。

日系、非日系にかかわらず、いけば、盆栽、墨絵などに対する関心も高まっている。日系人の家庭では和食が喜ばれ、また仏教会では伝統的な儀式や祭がいまでも行われている。

一方、わずかに四万の日系人が日本の二十七倍もあるカナダに分散し、しかも他民族との婚姻もふえているとあって、移民二百周年を迎える前に一族グループとしての日系人は消えてしまうのではなか、という懸念もある。百年祭を計画したのも、そういう点を考えてのことであらう。

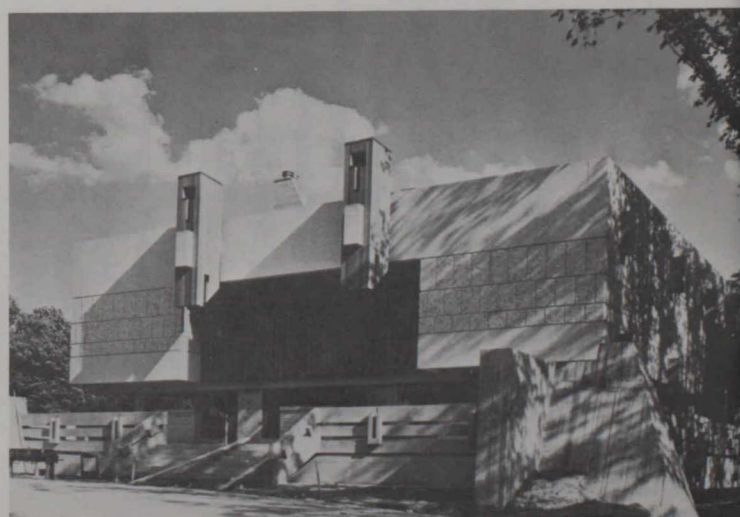
（日系カナダ市民協会百年祭委員会執行委員長）

それは柔道や空手などの武術であろう。柔道は初期の移民が紹介したが、日系人以外の人たちにも柔道の指導がなされたのは一九三五年、騎馬警官の課目に加えられるからである。

日系、非日系にかかわらず、いけば、盆栽、墨絵などに対する関心も高まっている。日系人の家庭では和食が喜ばれ、また仏教会では伝統的な儀式や祭がいまでも行われている。

それは柔道や空手などの武術であろう。柔道は初期の移民が紹介したが、日系人以外の人たちにも柔道の指導がなされたのは一九三五年、騎馬警官の課目に加えられるからである。

日系、非日系にかかわらず、いけば、盆栽、墨絵などに対する関心も高まっている。日系人の家庭では和食が喜ばれ、また仏教会では伝統的な儀式や祭がいまでも行われている。



トント市にある日加文化センター

君堀・スリー・ウィスのこと



野中 憲

人でにぎわっていた。日本人は私一人。カナダ在住日系人約三万七千人の大半はトロント、バンクーバーなどの英語圏に住みつき、仏語圏のモントルオールではあまり見かけないためだろうか。『日本人はフランス語が苦手だからね』と日本総領事館の大島領事が言った言葉を思い出した。『カナディアンロツク』の水割りを口にしながら、私は切り出した。

の。

『父を通して、名前ぐらいしか知らない。日本人の若い人々と話したこともないし、どんな国土、文化、社会の国なのか全然知らないんです』

— 祖父母の出身地は。

『オカヤマと聞いています。どんな町ですか』

— 日系人としてあなた自身がモントルオールで差別を受けたことはありませんか。

『全然ありません。敵意の目で見られたこともない。祖父母、父の時代は知りませんが……』

— 恋人は。

『アメリカ人です。結婚はどここの国の人でもないと思う』

夜が更けてきた。私たちは時間を忘れ

て語り続け、時には論争となって大声を上げていた。ウィスリー君はコンコーディア大学でアメリカ史を学び、卒業後、ボストンの統計事務所で一年間働いた。そしてモントルオールへ。実業家になることが夢だという。『偉大だった父に負けぬ実業家になりたい』と語るウィスリー君の柔和な目には並々ならぬ意志が潜んでいるようだった。『君が代』が奏でられても、『ボクはカナダ人だから』と立ち上からぬほどカナダ人に徹しきる。

彼の父、『ドクター堀氏』は正に偉大だった。この三世を語るのに、どうしても不可欠な人物である。堀博士は幼少の頃、父母に手を引かれ、バンクーバーに日系移民として渡ってきた。昭和初期と聞く。バンクーバーのホテルでベルボーイをしながら苦学、プリティッシュ・コロンビア大学を卒業すると、シカゴ大学医学部へ留学した。バンクーバーに戻り、外科医を開業、その三、四年後に不幸な第二次世界大戦へと突入した。日系移民の多くがそうであったように、彼もまた収容所へ。戦後、モントルオールへ来て、自宅で開業していたが、やがてカナダ人医師ら百人をかかえるジョン・タロン病院の院長にまで出世した。『百万長者』、『日系カナダ人の誇り』、『立身出世伝中の人物』など様々に称讃され、多くの日系移民のよりどころとなった。熱心なカトリック信者でもあった彼は、貧しい日系老人に薬屋を開業させてやったことから、『医師法違反』としてケベック州政府にやり玉にあげられ、医師免許を奪われた。カナダ最高裁まで争ったが、敗訴。悲嘆に暮れた彼は、一九六五年、ニューヨークへ去った。苦学十年、彼は遂にアメリカ

で医師免許を獲得した。不転の努力、再起である。今、彼は六十一歳。ハーバード大学医学部の助教授であり、ケンブリッジ市立病院の医師として健在である。巨富の生活からどん底生活へ、そして名譽ある地位へ、彼の人生は波乱万丈そのものだった。ウィスリー君は少年の目で、この実の父の姿を見つめながら育った。『何故、父はモントルオールを追われたのか』— 小さな胸で考え続けた毎日だったという。

その『偉大な父』が、モントルオールを去ってから実に十一年ぶりに、わが子のもとにこっそりと姿を見せた。オリンピック競技が中盤にさしかかった昨年七月下旬のある日のことである。父はわが子が立派に成長し、レストラン・マネージャーとして生活を支えている姿を見て涙を流した。苦難の日々の思い出が甦ってきたのだろうか、父はわが子を何度抱き締め、わが子が差し出すステーキの味をかみしめた。『ドクター堀帰る』の報は、だれにも知らされなかった。父は二世としての過去を胸に、子は三世として現在の生きがいを胸に、父と子だけの短い再会であった。

ウィスリー君は語る。『ボク、モントルオールに永住する。日の丸も美しいがカエテの国旗もまたすばらしい。このカナダの大地でずっと成功してみせる。そしていつの日か、祖父母、そして父の国ニッポンを訪れてみたい』と。カナダの若者として、どっしりと草原に座った姿が、そこにあった。

(共同通信前モントルオール特派員)

カナダと新渡戸稲造

要 猿谷

各方面の指導者にはかり知れない思想的な影響を与え、長い鎖国からめざめた日本の国際関係を促進させた新渡戸博士は、日本の近代史上に偉大な足跡を残したが、その博士が七十二歳の生涯を閉じたのは、生れた国の日本ではなく、また何度も訪れた妻の国アメリカでもなく、カナダのヴィクトリア市ジュービリー病院の一室であった。

彼は一九三三年八月二日、第五回太平洋会議（Fifth of Pacific Relations）に日本の代表として参加するため、随員たちと一緒に横浜を出航した。

長年の友だった内村鑑三は、一九三〇年にこの世を去っていた。三一年には満州事変が、三二年には上海事変や五・一五事件が起り、日本の大勢は不幸にして彼のめざす方向から遠ざかるばかりだった。その上、三三年三月には、かつて彼が七年間も事務局次長を勤めていた国際連盟から、日本は脱退してしまったのだ。

こういう客観的な情勢を考えると、国際平和を願っていた新渡戸博士のその時の気持は、今でも察するに余りがある。博士の親友宮部金吾は、次のように書いている。

「昭和七年（一九三二）二月、君は急転する時局を深く憂えていましたが、松山市に講演旅行をした際、新聞記者を含む来訪者との宿舎での私的会見において、『日本を亡ぼすものは共産党か軍部であろう。』という意味の憂慮を述べられたとの報道が広まり、その後しばらく軍部関係、在郷軍人等の団体から圧力が加えられました」

私は今までにたびたびアメリカで、「第二次大戦前の日本には反戦思想家が育た

なかったのか」という質問を受けたが、いま私が仕事をしている東京女子大学の初代学長だった新渡戸博士が、その稀な存在だったことに對し、私は国際的なレベルでの誇りを感じている。

一九二四年にアメリカで排日移民法が成立したときには、もう一度とアメリカの土は踏まないといつてアメリカの反省を迫った博士も、国際的に孤立化した日本の立場を理解してもらうため、三二年四月から三三年三月まで、アメリカの各地で百回をこえる講演を試みる。そして休むまもなく、今度はカナダへ向けて出発したのである。

博士は多忙な身でありながら、当時『英文毎日』に『Pan-Pacific Longing』を連載していたが、一九三三年九月九日付には、次のような部分がある。

「欧米の人びとに對して、日本の必要と念願をよく伝える。弁解は一切無用だが、事実を正確に説明する。中国人に對してはとくに親切にし、彼等を追いつめないようにする。誠実・気軟、そして忍耐」

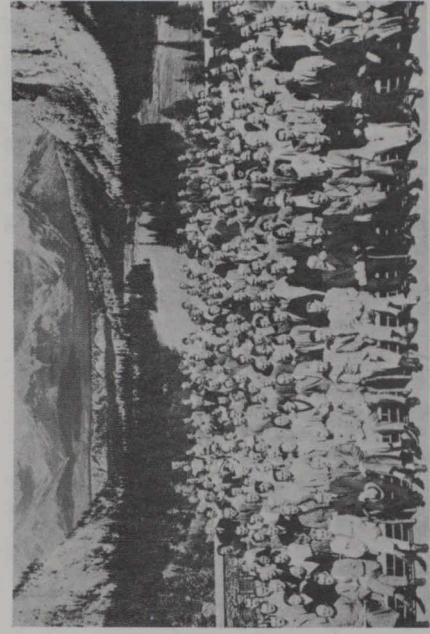
カナディアン・ロッキーマウンテンの美しい山々に囲まれた町バンフで行なわれる第五回の太平洋会議に、博士は大きな期待を抱いていた。京都での第三回会議には議長として、上海での第四回会議には日本代表として、いつも重要な役割を果たしてきた博士は、この民間の会議を、国際連盟と比較するほど大切なものと考えていたのである。

それでは、この会議での博士はどうだったろうか。随行した高木八尺は、身近に見た博士の様子を、次のように書いている。

「しかし先生は、バンフに御到着の前夜、

汽車のなかですでに一度激烈な腹痛に襲われておられました。御到着の日は大会開会の当日であつたため、実に寸暇もなく、その並々ならぬ疲労をおして、先生は日本側委員長として、またその夜の選ばれた演説者の一人として、見事なお働きをなされました。まことに会合が優れた人の集まりであればあるほど、先生の光は輝きます。かけがえのない太平洋会議の中核人物でありました。……今から思いますれば、しかし、先生はバンフ

バンフでの会議（一九三三年）の参加者。前列右から九番目が新渡戸博士。（新渡戸稲造全集第一六巻より）



会議の間何となく、いつもの溢れるお元気がありませんでした。それが、私の生きた先生におめにかかった最後でした」

もう一人、副島道正の追悼文のなかから引用してみよう。

「バンフの太平洋会議における博士は、失礼ながら満点であつた。氏はこの会議

において、大いにわが国威を宣揚したのである」

しかし、死はすでに彼の足許にまで迫っていた。身体の不調を知った博士は、会議のあとヴィクトリア市で静養したが、九月十一日激しい腹痛に見舞われ、意識不明のままジュービリー病院に入院する。

『太平洋の橋』のなかで、石上玄一郎はこう書いている。

「痛みはなおも続いて、すぐ面会謝絶になった。四、五日たつて『くず湯が飲みたい』というので持つていくと、新渡戸はスプーンをよく持つことができなくて、それがバタリと床に落ちた。……だが、文筆家の執念とでもいうか、そのスプーンを持つことさえおぼつかない手に鉛筆を握つて、死のまぎわまで『英文毎日』の原稿を書き続けたのである」

病名はなかなか分らなかつたという。病気のためアメリカで静養していたメリー夫人もかけつけ、十月十五日に手術を受けた結果、脾臓腫瘍という大変厄介な病気であることが判明した。

経過は一時良好のようにみえたが、その後病状が急変し、同日午後八時半に、その魂は天に昇つた。病院では、非の打ちどころのない立派な患者だった、と認めている。

太平洋の架け橋になりたいという博士の遺志は、日加両国にとつても、これからますます大切に生かさなければならぬ。いまブリテイッシュ・コロンビア大学の構内にある美しい日本庭園ニトベ・メモリアル・ガーデンは、彼の遺志を生かそうとする日加両国の意志の結晶といえるのではないだろうか。

ケベック州政府、新言語法を提案

フランス語を唯一の公用語に

ケベック州政府は四月末、フランス語を同州の唯一の公用語とする新言語法案を州議会に提出した。同法案の内容は、先に発表された「言語白書」に沿ったもので、ケベックにおけるフランス語の推進と、英語使用の制限を指している。ただし、白書では法廷用語も個人および弁護士が発言を除いてすべてフランス語に統一することになっていたのに対し、法案では企業や団体を代表する弁護士も、当事者同士が合意すれば英語で弁護できるとしている。

法案の主な内容は次の通り。

一、今後新たにケベック州に移住する住民（カナダの他の州および米国など英語系諸国からの移住者を含む）の子供は、すべてフランス語の学校に入学しなければならぬ。ただし、両親のうち少なくとも一人がケベックの小学校で英語による教育を受けておれば、その子供は将来、一定の移行期間において英語学校に通学することができる。

また暫定措置として、すでに英語学校に通学している子供およびその兄弟姉妹は英語学校に通学できる。両親が同法案の成立時にケベック州民で、しかもいずれか一人がケベック州以外で英語による教育を受けておれば、その子供は英語学校に通学できる。

これらの教育条項は、ケベックの単なる通過者、もしくは一時滞在者には適用されない。

一、ケベックにおける諸法令、判決文、労使協定は、フランス語版のみを公式とする。公的機関の公式書類はすべてフランス語とする。また対外文書もフランス

語を公式用語とする。適度のフランス語の知識を有しない者は、公的機関の職務に任命、配属または昇進させられることはない。

一、従業員は雇用者からフランス語による書面の通達を受ける権利を有する。雇用者が求職者に対しフランス語以外の言語の使用を要求する場合は、こうした知識が職務上必要であることを示さなければならぬ。従業員はフランス語で職務を遂行する基本的権利を有し、フランス語以外は話せないというだけの理由で解雇されることはない。

一、五〇人以上の従業員を擁する企業は、フランス語による企業運営、フランス語を使用する人材の登用、フランス語による通達、広告、技術用語のフランス語化を内容とするプログラムを作成し、州政府から証明書を受けなければならない。従業員が百人以上の企業は、少なくとも三分の一を従業員が占めるフランス語促進委員会を設置しなければならない。政府の証明書を取得できない企業は、政府との契約や政府の認可証を失うことになる。

一、交通標識はフランス語のみで標示する。

ケベック州政府は、こうした政策をとる背景として、四月一日の「言語白書」の中で次のような見解を明らかにしている。すなわち、一、ケベック州ではフランス語を話す人の数が減少しつつあり、何らかの政策をとらないと完全に消滅する恐れがある。二、今後、英国系住民に代わって英国以外からの移民の比率が増加しようが、移民は放置すると英語系住民として定着するかもしれない。三、商業用

語としては州内で英語が圧倒的な地位を占める。また英語系の労働者が最上層とになっているのに対し、フランス語系はイタリア系やインド系住民と並んで最下層に属する。

七七年の連邦予算案を発表

インフレ抑制と雇用拡大に力

マクドナルド大蔵大臣は三月三十一日、七七年度（七七年四月―七八年三月）の子算案を下院に提出した。今回の子算案は、「インフレ低下基調を維持し、雇用を高め、失業率を縮小させるために堅調かつインフレなき経済成長を図る」（同大臣）ことを目指している。このため、雇用に新たに一億ドルを計上しているほか、低所得者に対する税金控除、中小企業に対する長期融資などを盛り込んでいる。また賃金・物価統制は、早くても十月までは解除をしない、と述べている。

物価・賃金統制 同統制策によりインフレ率は低下したが、最終目標はまだ達成されていない。したがって、統制策を突然解除すると、価格およびコストの上昇が再びエスカレートし始める恐れがあるため、同政策導入後二年目にあたる本年十月十四日以前の解除は望ましくない。しかし、労使双方に自主的抑制のム

ードができてきているため、解除が早くなる可能性はある。

雇用政策 カナダ経済の最大の問題は高い失業率。成人男性だけだと五パーセントに満たないが、成人女性の失業率は七パーセント、若者の場合は一四パーセントにのぼる。そこで若年労働者および失業率の高い地域を中心対象とする雇用拡大関係予算を一億ドル増加して、四億五千八百万ドルとする。これにより、月間六十万の雇用が創出される見込み。

連邦支出の抑制 昨年の連邦支出は予想額以下に抑えられた。七七年度の伸び率はGNPの伸び率をかなり下回るようにする。

金融・財政政策 同政策は経済の適度成長とインフレ緩和に成果を上げており、急激な政策転換は避けるべきである。

雇用拡大・投資奨励・地域開発 ①本年六月三〇日に期限切れとなる投資税控除を研究・開発への資本投資にも適用し、また地域開発奨励法の指定を受けた低成長地域（サスカチュワン、マニトバ、北部オンタリオ、ケベックの特定地域、大西洋沿岸州）について控除率を上げる。②フロントニア地域における天然ガスおよび石油開発や、鉄道輸送施設の整備に対し、税的優遇策を講ずる。③株主の配当金税額控除を、七八年一月一日より、三三・三パーセントから五〇パーセントに引上げる。④平均的家族（四人）で年収が七千三百六十ドル以下の場合、七七年度の連邦税を免除される。

関税率の変更 各種消費者製品に対する現行の関税引下げ措置を、来年六月三〇日にまで再延長する。



大窪 二編訳 「ハーバーバート・ノーマン全集」

長野県軽井沢でカナダ合同教会牧師の次男として生れ、占領中の一九四六年から五〇年にかけて駐日カナダ代表部首席、一九五一年にはサンフランシスコ対日講和会議のカナダ代表団首席随員として活躍し、「忘れられた思想家安藤昌益のこと」などの著作を残したハーバート・ノーマンの全集四巻が刊行される。第一巻「日本における近代国家の成立」はすでに四月下旬に発売され、第二巻も六月下旬刊行予定と、次々出版されることになっている。

ノーマンの没後二〇年をへて刊行されるこの全集は、これまでに翻訳・発表された彼の著作に加えて、未邦訳、未公開、および未亡人より提供された遺稿を収めたカナダやアメリカにもまだない画期的なもので、戦後、日本の近代史学に大きな影響を与えたノーマンとノーマン史学の全体像が浮きぼりにされている。各巻には、戦前から個人的にノーマンを知り、ノーマンの著作の大半を翻訳した編者による解題が付され、各篇の執筆時期、背景などを詳しく論証し、ノーマンの人と史観を知る手びきを与えている。

第一巻「日本における近代国家の成立」は、「日本における近代国家の成立」は、イギリス史学の伝統に立った幅広い展望のもとに、明治維新を歴史的に分析する。明治維新はいかなる要因によって成立したのか、維新後の政治権力の重心はどこにあり、現実的権力を左右したメカニズムは何か――近代国家を成立させた日本の政治の中心問題に具体的に取組んだ注目の書。ほかに、「政体書について」および「封建制下の人民」を併録。

第二巻「日本政治の封建的背景」（初邦訳）は、過激国家主義団体の生成過程を述べることによって、日本における大衆統御の技術、一貫した膨脹主義者の戦術を分析する。他の十一論文（初邦訳、初公開遺稿）は、民主主義への強い意志と歴史認識を支えられ、終戦直後の日本の政治改革に直接かわりをもったノーマンの軌跡をたどる。「日本における過激国家主義団体の概要」「一九三〇年代の日本政治」「敗戦直後の日本政治」などの諸篇が収録されている。

第三巻「安藤昌益」 日本における封建社会の根底的批判者として、安藤昌益を正面から論ずる。性急な結論を避け、多くの留保を残しながら、昌益の全著作にわたって検討を加え、昌益の思想的位置づけを行なおうとする。日本民族の伝統のなから昌益を発掘することに よって、自主的に民主主義をつくりあげようとしていた終戦直後の日本人を激励した書である。「忘れられた思想家 安藤昌益のこと」など。

第四巻「日本の兵士と農民・歴史随想」 ノーマンの歴史的関心の中心テーマと幅広い問題意識、豊かな感覚に触れる。

第一巻「日本における近代国家の成立」は、「日本における近代国家の成立」は、イギリス史学の伝統に立った幅広い展望のもとに、明治維新を歴史的に分析する。明治維新はいかなる要因によって成立したのか、維新後の政治権力の重心はどこにあり、現実的権力を左右したメカニズムは何か――近代国家を成立させた日本の政治の中心問題に具体的に取組んだ注目の書。ほかに、「政体書について」および「封建制下の人民」を併録。

第二巻「日本政治の封建的背景」（初邦訳）は、過激国家主義団体の生成過程を述べることによって、日本における大衆統御の技術、一貫した膨脹主義者の戦術を分析する。他の十一論文（初邦訳、初公開遺稿）は、民主主義への強い意志と歴史認識を支えられ、終戦直後の日本の政治改革に直接かわりをもったノーマンの軌跡をたどる。「日本における過激国家主義団体の概要」「一九三〇年代の日本政治」「敗戦直後の日本政治」などの諸篇が収録されている。

第三巻「安藤昌益」 日本における封建社会の根底的批判者として、安藤昌益を正面から論ずる。性急な結論を避け、多くの留保を残しながら、昌益の全著作にわたって検討を加え、昌益の思想的位置づけを行なおうとする。日本民族の伝統のなから昌益を発掘することに よって、自主的に民主主義をつくりあげようとしていた終戦直後の日本人を激励した書である。「忘れられた思想家 安藤昌益のこと」など。

第四巻「日本の兵士と農民・歴史随想」 ノーマンの歴史的関心の中心テーマと幅広い問題意識、豊かな感覚に触れる。

カナダは独得な国で、世界有数の生活水準（高い一人当りGNP）と、ある種の開発途上国の特徴（例えば、一次産品の輸出への高い依存度、稀薄な人口密度、入植の必要な辺境の存在など）とを兼ね備えている。（だから例えば、カナダの経済発展の説明原理の一つ「主要産物販売」は、開発論一般にとっても興味あることで、本書でもやや立ち入って論じられている。）トロント大学のI・ドラモンド教授のこの著書は、このように複雑で多面的なカナダの経済を全面的に概観、分析したものである。

カナダに対する日本の当面の関心は圧倒的にカナダ人の経済（まず何より、資源の供給国として、さらに財、資本の輸出先として）であって、文化等々は二の次であるというのが良くも悪しくも、正直なところであろう。それにもかかわらず、カナダ経済を要領よく概観した邦語の書籍はほとんどないというのが現状である。その意味だけでも、本書は貴重であった。

本書の優れた点は多々あるが、中でも存在であるといっても過言でなからう。本書の優れた点は多々あるが、中でも次の点が指摘できよう。

経済の過程は同時に政治その他の過程でもあるが、カナダでは、それは例えば、地域間の経済開発水準の較差、村米経済「従属」（外資所有・支配）の問題、保護関税、国有化、交通システムの料金体系、住宅供給、失業（人種的、地域の問題も絡む）等々の、一面では政治、社会問題でもあるものとして、特殊カナダの様相を示す。本書では、こうした問題を取扱う上で、潔癖なまでに、経済学の観点から論じ得ることに限定している。それは経済的側面が特に重要だからと考えるからでなく、むしろ、経済学が言い得ることと言えないことを明確にすることにより、政治が誤った経済的論拠をもち出して自己正当化を試みることを防止する

ためだ」と著者は言う。その結果、カナダ経済のかえる問題がより明瞭になるとともに、われわれが日本の類似の問題を考える上でも、一つの見識として参考にし得るように思われる。さらに、本書が最新の事実資料と経済分析とを緊密に結びつけて提示している点も、カナダ経済の理解を皮相なものにしないている。原書は大学の入門教科書を意図したもので、一般人にも難しくはないし、また理論と事実との結合を入門書に実現しているという点で、大学教育関係者にも問題と提起している書であると信ずる。

（日本経済新聞社発行）



日加議員連盟の会長に前尾前衆院議長 両国議員間の情報交換を促進

昨年三月に結成された日加議員連盟は、五月十日、憲政記念館で総会を開き、新会長に前尾繁三郎前衆議院議長を選出した。

また、国会図書館とカナダ連邦議会図書館の間で情報交換を促進することになり、日本側から贈られる基本図書の一部が、前尾会長からブルース・ランキン大使に手渡された。

「歌う恋人」アン・マレーが来日

「スノー・バード」、「ダニーの歌」、「ラブ・ソング」などの大ヒットで知られるカナダのポピュラー歌手アン・マレーが来日した。アン・マレーは、七〇年から四年連続でカナダのレコード大賞「ジュノー賞」の最優秀女性歌手賞を受賞したほか、七二年には英国で最優秀女性歌手賞、七五年にはグラミー賞最優秀歌手賞（カントリー・ウエスタン部門）などを受け、米国CBSテレビのグレン・キャンベル・ショーにレギュラーとして



出演したこともある。

また一九七四年には、ヘンリー・マンシーニに認められ、ジョージ・C・スコット、フェイ・ダナウェイ主演の映画「オクラホマ巨人」の主題歌を吹き込んでいる。

公演日程は五月二十九日新宿・厚生年金ホール、五月三

十一、六月一日大阪フェスティバル・ホール、三日横浜・神奈川県民ホール、四日名古屋市民会館、五日福岡市民会館、六日熊本市民会館、八日中野サンプラザホール。詳細はキョードー東京（電話四〇七七八一三二）へ。

本紙では、「私とカナダ」というテーマで、読者からの原稿を募集しています。特にカナダで生活したことのある方、現在カナダに住んでおられる方、日加関係にかかわりあっておられる方、カナダ研究をされている方などの寄稿を歓迎します。カナダでのご体験、カナダの諸分野に対するご感想やご意見、日加関係に対するお考えなどをお寄せ下さい。長さは四百字詰め原稿用紙で三枚もしくは六枚でいど。採用分については薄謝を差上げます。

昨年の国際収支、五億ドルの黒字 輸出の増大などが好影響

昨年のカナダの国際収支は、貿易収支の好転や資本流入などにより、総合収支で七五年の四億四千万ドルの赤字から、一挙に五億二千二百万ドルの黒字となった。

経常収支では、米国、日本などの先進諸国の景気回復に伴い、輸出総額が前年比一四・八パーセントも増大した一方、輸入は同七・九パーセント増にとどまったため、十一億三千二百万ドルの黒字前年比は六億三千九百万ドルの赤字幅を記録した。これにより、貿易外収支の赤字幅が七五年の四十七億三千二百万ドルから六十億二百万ドルへと拡大したにもか

わらず、経常収支全体では赤字幅が六億三千六百万ドル縮小して四十三億二千九百万ドルとなった。

また資本収支では、カナダ・ドルが比較的強かったため、ヨーロッパ・ポンド市場などからの資本の流入（長期資本で七十五億四千八百万ドル）があつて、四十八億五千万ドルの黒字を記録した。

観光収支は十二億ドルの赤字

昨年カナダ人が海外旅行（主として米国での観光）で落した金は、海外からの旅行者がカナダで使った額を大幅に上回った。収入十九億三千万ドルに対し、支出は三十一億二千万ドルで、十一億九千万ドルの赤字。これは多くのアメリカ人が建国二百周年を迎えて国内にとどまったこと、カナダ人旅行者の一人当たり支出がおよそ二三パーセントも上昇したことなどが原因とみられている。

石油・ガス埋蔵量は増加の見込み ギレスピー・エネルギー大臣が報告

カナダで石油や天然ガスが大量に発見される可能性はまだある。

ギレスピー・エネルギー・鉱山・資源大臣がこのほど下院に提出した資料によると、一九七五年十二月三十一日現在でカナダの石油および天然ガスの残存可採埋蔵量（ターサンドを除く）は八十五億バレルであったが、石油およびその他の液体炭化水素は最高二百五十億バレルも存在する可能性がきわめて強い（確率九〇パーセント）。二百億バレルだと、五〇パーセントの確率。

天然ガスは、残存可採埋蔵量およそ八十五兆立方フィートに対し、九〇パー

セントの確率で二百二十九兆立方フィートも存在するという。

因みに、カナダの現在の年間需要は天然ガスが約一兆四千億立方フィート、石油が約七億三千万バレル。

人事往来

○「カナダ・セキズイ損傷者協会」訪日団（ビル・フォスケット団長ほか医師や看護婦らを含めて三十人）、四月三十日に来日。

○ジョン・ロバート文化担当国務大臣が来日。四月。

○太平洋沿岸貿易・親善使節団（団長D・R・フレージャー・バンクーバー貿易協会会長）が来日。四月。

○ニュー・ブランズウィック州のローレンス・ガービー大蔵大臣らが来日。四月。

○ジョン・H・チャップマン博士（通信省宇宙開発計画担当次官補）およびローレンス・W・モリー博士（エネルギー・鉱山・資源省遠隔探査センター所長）が日本宇宙開発委員会の招きで来日。五月。

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を表わすものではないことをお断りします。転載の際は出典を明らかにして下さい。なお、ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

東京都港区赤坂七丁目三番三八号
カナダ大使館広報部